

令和元年度厚生労働科学研究費補助金  
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)  
分担研究報告書

国民生活基礎調査等を用いた分析

研究分担者 尾島 俊之 (浜松医科大学 健康社会医学講座 教授)

**研究要旨**

傷病及び症状の日常生活の制限への人口寄与割合を世代別に明らかにして、今後の健康寿命に関する施策の推進に寄与する知見を得ることがこの分担研究の目的である。平成28年(2016年)国民生活基礎調査の調査票情報の提供の申出を行い、傷病及び症状と、日常生活の制限の有無との年齢を調整したオッズ比を性別に、また40～64歳と、65歳以上を分けて算定し、さらに、それらの人口寄与割合を算定した。その結果、腰痛等の筋骨格系の傷病や症状、高齢者において、傷病では眼の病気、症状ではきこえにくい、若年者においては、うつ病やその他こころの病気の人口寄与割合が高い結果が得られた。健康寿命の延伸のためには、死亡率を減らす対策とともに、これらの傷病や症状への対策の重要性が高い。

**A. 研究目的**

健康寿命は、性・年齢階級別の死亡率と日常生活の制限のある割合を用いて、サリバン法で計算されることが多い。私たちは、平成19年(2007年)国民生活基礎調査匿名データを用いて、日常生活の制限に対する各傷病の通院状況のオッズ比及び人口寄与割合を算定し(文献1)、厚生労働省の健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書(文献2)でも参考資料として用いられた。この人口寄与割合の高い傷病について、若年者(働き盛り世代)と高齢者(高齢世代)とで異なる可能性がある。また、各症状についても、同様に日常生活の制限への人口寄与割合を明らかにすることは重要である。

そこで、利用可能な直近の国民生活基礎調査等のデータを分析し、各傷病及び各症状の日常生活の制限への人口寄与割合を世代別に明らかにすることがこの報告の目的である。

**B. 研究方法**

統計法(平成19年法律第53号)第33条第1項の規定に基づき、平成28年(2016年)国民生活基礎調査の調査票情報の提供の申出(いわゆる二次利用申請)を行った。通院している各傷病(添付資料の問4)、自覚症状の各症状(添付資料の問3)と、日常生活の制限の有無との年齢を調整したオッズ比を性別に、また40～64歳の若年者と、65歳以上の高齢者を分けて算定した。さらに、それらの人口寄与割合を算定した。

**C. 研究結果と考察**

各傷病及び各症状の日常生活の制限に対する人口寄与割合の40～64歳の若年者と65歳以上の高齢者の比較を図に示す。

通院している各傷病の人口寄与割合については、腰痛症は若年者・高齢者とも非常に高い。また、次いで関節症も高い。眼の病気、骨粗しょう症、認知症は、若年者と比較して高齢者でより高い結果であった。逆に、うつ病やその他

こころの病気は、若年者でより高い結果であった。

各症状の人口寄与割合については、腰痛、手足の関節が痛む、手足のしびれなどが、若年者・高齢者とも概ね同程度に高かった。一方で、手足の動きが悪い、もの忘れをする、きこえにくいなどは、高齢者でより高い結果であった。逆に、肩こり、体がだるいなどは、若年者の方が高かった。高齢者世代での課題を根本的に減らすためには、若年期からの対策が重要なものも多いが、現時点での若年者及び高齢者における重点課題は異なる結果が明らかになった。

#### D. 結論

国民生活基礎調査等のデータを活用して分析を行ったところ、腰痛等の筋骨格系の傷病や症状の人口寄与割合が高い結果であった。また、特に高齢者において、傷病では眼の病気、症状ではきこえにくいなどの人口寄与割合が高く、それらの対策を強化する必要がある。若年者においては、日常生活の制限がある人を減らすために、うつ病やその他こころの病気の対策が重要である。健康寿命の延伸のためには、死亡率を減らす対策とともに、これらの傷病や症状への対策の重要性が高い。

#### 参考文献

- 1) Myojin T, Ojima T, Kikuchi K, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Hashimoto S. Orthopedic, ophthalmic, and psychiatric

diseases primarily affect activity limitation for Japanese males and females: Based on the Comprehensive Survey of Living Conditions. J Epidemiol. 2017; 27(2):75-79.

- 2) 健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書. 厚生労働省, 2019. [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_04074.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04074.html)

#### E. 研究発表

1. 論文発表・著書
  - 1) Ojima T. Policy Relevance of Health Expectancy in Health Promotion. Jagger C, et al. eds. International Handbook of Health Expectancies. Springer Nature Switzerland, 2020, pp191-200.
2. 学会発表
  - 1) 尾島俊之、細川陸也、相田潤、近藤克則、近藤尚己. 健康寿命の簡便な計算方法の開発. 日本循環器病予防学会誌, 2020, 55(3):224.

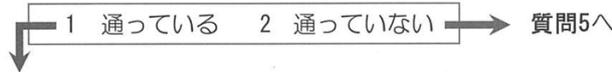
#### F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし



添付資料 国民生活基礎調査による傷病及び症状の質問

質問4 あなたは現在、傷病（病気やけが）で病院や診療所（医院、歯科医院）、あんま・はり・きゅう・柔道整復師（施術所）に通っていますか。（往診、訪問診療、補問3-1の症状で通っているものを含む）

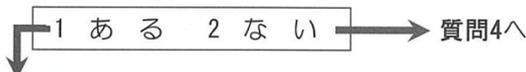


補問4-1 どのような傷病（病気やけが）で通っていますか。あてはまるすべての傷病名の番号に○をつけてください。その中で最も気になる傷病名の番号を番号記入欄に記入してください。

内分泌・代謝障害	01 糖尿病	呼吸器系	15 急性鼻咽頭炎(かぜ)	泌尿生殖器系	32 腎臓の病気
	02 肥満症		16 アレルギー性鼻炎		33 前立腺肥大症
	03 脂質異常症 (高コレステロール血症等)		17 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)		34 閉経期又は閉経後障害 (更年期障害等)
精神・神経	04 甲状腺の病気		18 喘息	損傷	35 骨折
	05 うつ病やその他の こころの病気		19 その他の呼吸器系 の病気		36 骨折以外のけが・ やけど
	06 認知症	消化器系	20 胃・十二指腸の病気		37 貧血・血液の病気
	07 パーキンソン病		21 肝臓・胆のうの病気		38 悪性新生物(がん)
	08 その他の神経の病気 (神経痛・麻痺等)		22 その他の消化器系 の病気		39 妊娠・産褥 (切迫流産、前置胎盤等)
循環器系	09 眼の病気		23 歯の病気		40 不妊症
	10 耳の病気	皮膚	24 アトピー性皮膚炎		41 その他
	11 高血圧症		25 その他の皮膚の病気		42 不明
	12 脳卒中(脳出血、脳梗塞等)	筋骨格系	26 痛風		
	13 狭心症・心筋梗塞		27 関節リウマチ		
	14 その他の循環器系の 病気		28 関節症		
			29 肩こり症		
			30 腰痛症		
			31 骨粗しょう症		

最も気になる傷病の  
番号記入欄 →  番

質問3 あなたはここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）がありますか。



補問3-1 それは、どのような症状ですか。あてはまるすべての症状名の番号に○をつけてください。その中で最も気になる症状名の番号を番号記入欄に記入してください。

全身症状	01 熱がある	呼吸器系	15 せきやたんが出る	筋骨格系	29 肩こり
	02 体がだるい		16 鼻がつまる・ 鼻汁が出る		30 腰痛
	03 眠れない		17 ゼイゼイする	手足	31 手足の関節が痛む
	04 いろいろしやすい		18 胃のもたれ・ むねやけ		32 手足の動きが悪い
	05 ものを忘れる	消化器系	19 下痢		33 手足のしびれ
	06 頭痛		20 便秘		34 手足が冷える
	07 めまい		21 食欲不振	泌尿生殖器系	35 足のむくみやだるさ
眼	08 目のかすみ		22 腹痛・胃痛		36 尿が出にくい・ 排尿時痛い
	09 物を見づらい		23 痔による痛み・ 出血など		37 頻尿(尿の出る回数が多い)
耳	10 耳なりがする		24 歯が痛い		38 尿失禁(尿がもれる)
	11 きこえにくい	歯	25 歯ぐきのはれ・出血		39 月経不順・月経痛
胸部	12 動悸		26 かみにくい	損傷	40 骨折・ねんざ・ 脱臼
	13 息切れ	皮膚	27 発疹(じんま疹・できもの など)		41 切り傷・やけどなどの けが
	14 前胸部に痛みが ある		28 かゆみ(湿疹・水虫など)		42 その他

最も気になる症状の番号記入欄 →  番